

米に関する資料

令和7年7月
農林水産省

(5/21) 大臣就任 (政府備蓄米の第4回入札の中止を発表)

○ 5/26 農水省に**米対策集中対応チーム**を設置 (チーム長:事務次官、現在約600名(6月30日時点))

随意契約による政府備蓄米の**申請受付開始**

参考資料1

→ 5/29～ **ECサイト**での販売開始 (アイリスプラザ、楽天市場)

→ 5/31～ **店頭**での販売開始 (イトーヨーカドー、アイリスオーヤマ等)

→ 6/5～ **コンビニ**での販売開始 (ファミリーマート、ローソン、セブン-イレブン等)

• 5/30 **中小スーパー、街のお米屋さん**による政府備蓄米の申請受付開始
→ 6/16～ **街のお米屋さん**での店頭販売開始

参考資料1

○ 6/5 第1回 米の安定供給等実現関係閣僚会議

• 6/12 **SBS米（主食用）の輸入前倒し**を発表

• 6/16 統計見直し（作況指標の公表廃止・ふるい目の実態への合致）を発表

参考資料2

• 6/17 **全届出事業者**を対象とした調査など**米の流通実態の把握強化**を発表

参考資料3

• 6/18 **中食・外食事業者、給食事業者**の政府備蓄米の**売渡対象への追加**を発表
精米事業者の「とう精能力」の調査・マッチングを実施

参考資料1

• 6/19 米の生産者に向けた今後の**生産意向のアンケート**を開始

参考資料4

• 6/20 **一般MA米の輸入前倒し**を発表

青：米の価格安定に向けた取組

橙：米の価格高騰の要因の検証等に係る取組

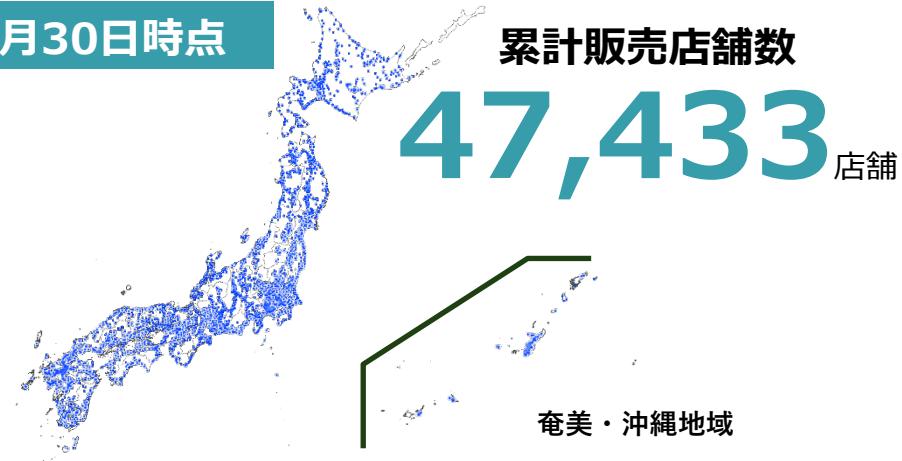
随意契約による政府備蓄米の販売状況

- 隨契備蓄米について、その供給が加速度的に拡大中。
- 5月31日の店頭販売開始以降、販売店舗は加速度的に拡大し、現在47,433店舗で販売。
- 離島での販売も行われており、今後も広く、あまねく供給できるよう推進。

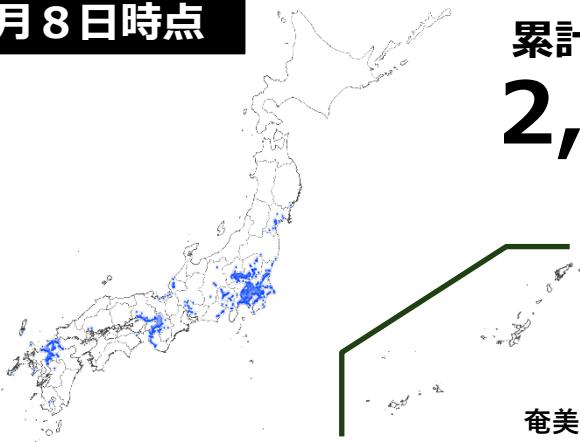
6月1日時点



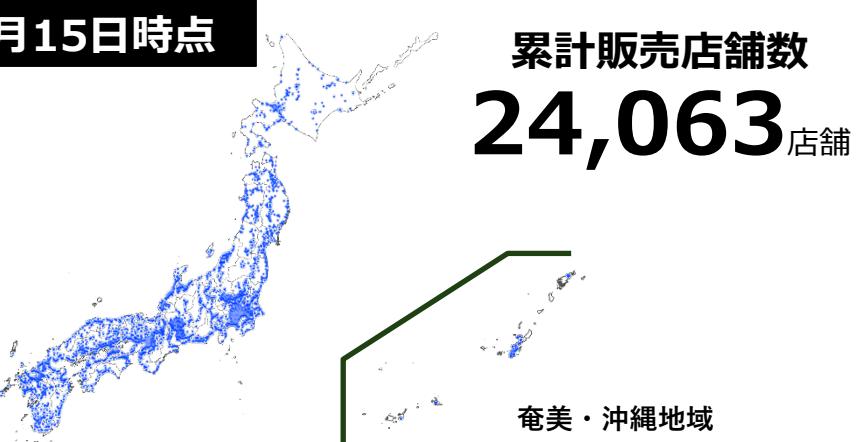
6月30日時点



6月8日時点



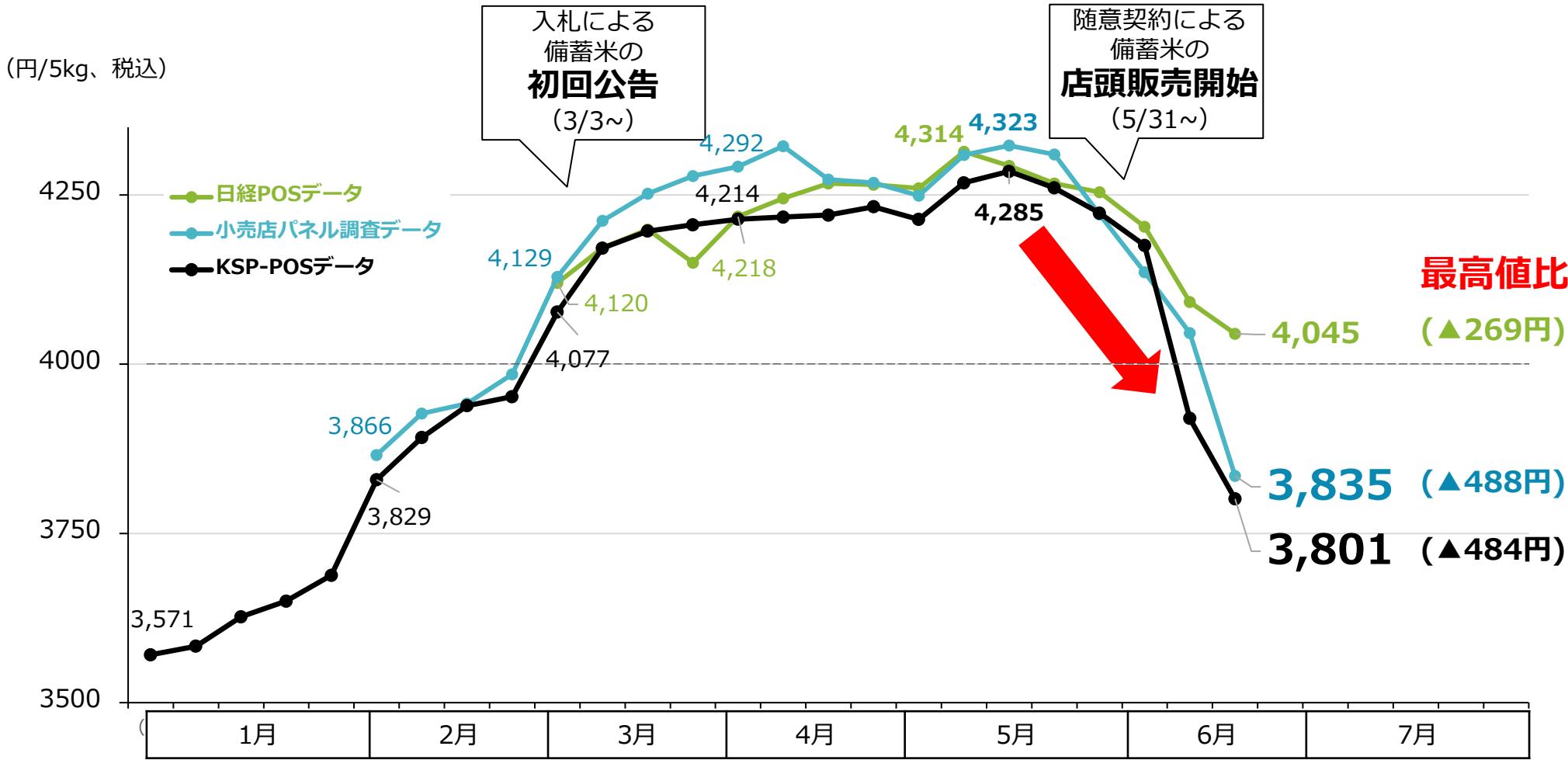
6月15日時点



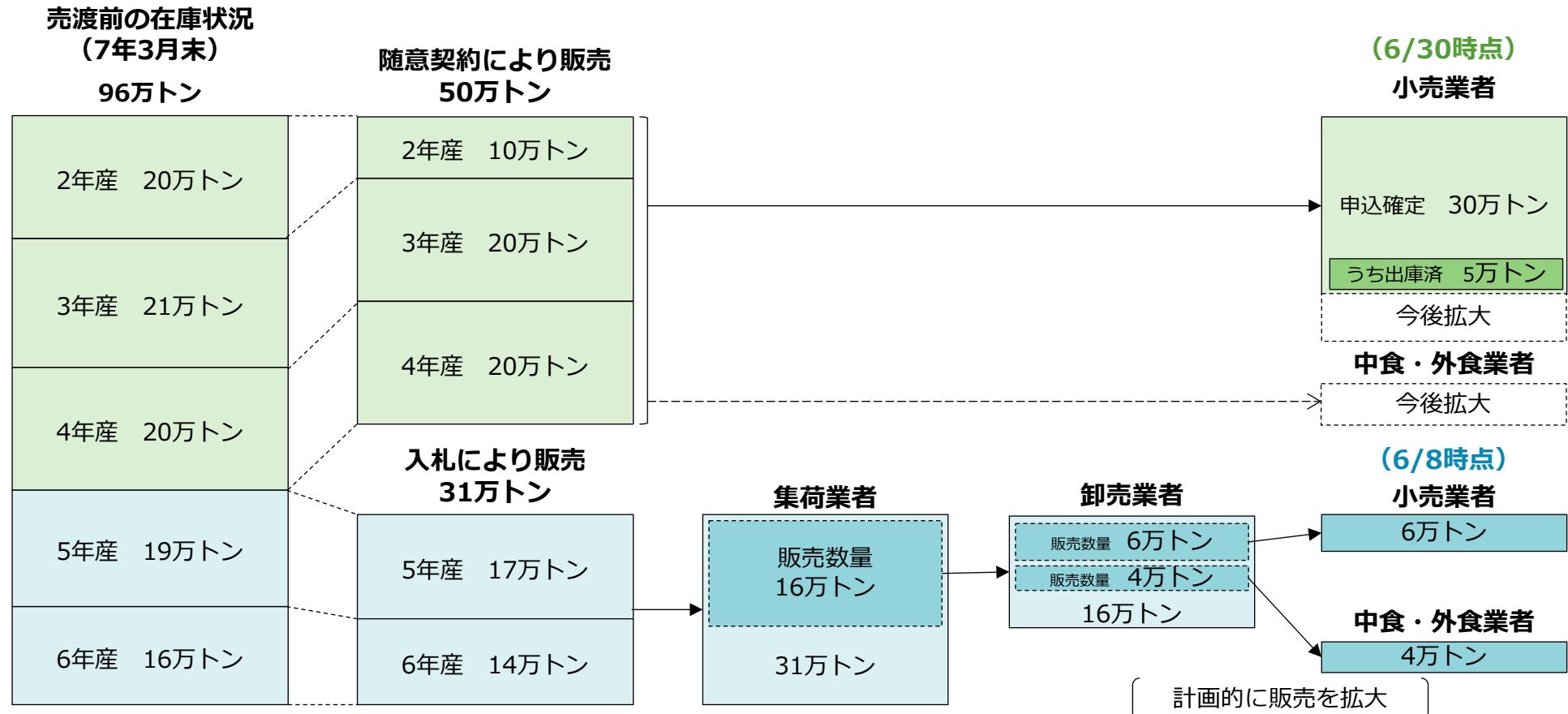
- 隨契備蓄米の発売を確認した店舗

米の小売価格の推移

- 米の価格については、年明け以降段階的に上昇していたが、こうした取組より、5月2,3週目を境に連続して下落。
- 今後、随意契約による備蓄米の一層の流通により、さらなる価格の鎮静化を図る。



- 政府備蓄米については、入札により31万トン、隨契により50万トンそれぞれ販売。
- 入札による備蓄米は小売に6万トン・中食／外食に4万トン販売済、隨契による備蓄米は小売に5万トン引渡し済。
- 引き続き販売状況を注視。スピード感をもって備蓄米をエンドユーザー（小売等）へ届けていく。



①作況指数の公表廃止、ふるい目の実態への合致

- 作況指数について、令和7年産から公表の廃止を表明。
- これまで、主食用に流通し得る米として認識し把握してきた1.70mm以上のふるい目に基づく収穫量を使用して需給を見通して来たが、**生産者ふるい目（1.85mm、1.90mm等）**のふるい下米については、主食用に利用されているにもかかわらず、**生産者からは主食用として認識されていない**。
- **生産者の感覚とのずれが生じていること、主食用として真に流通する量を把握する必要があることから、ふるい目を実態と合致させるための見直しを実施。**

①作況指数

令和7年産から公表の廃止

$$\text{作況指数} = \frac{\text{10a当たり収量}}{\text{10a当たり平年収量}} \times 100$$

(過去30年のすう勢)

生産現場では前年や直近の収量と比較して作柄を判断。
(実態との乖離の可能性)

②ふるい目の実態への合致

収穫基準のふるい目(1.70mm)を、**生産者ふるい目（1.85、1.90mm等）**に変更することを検討 等

(参考) 直近5年の収穫量

(万トン)

	R2	R3	R4	R5	R6
現行調査 ベース (A)	723	701	670	661	679
生産者 ふるい目 ベース (B)	691	670	639	639	652
差 (A-B)	32	31	31	22	27

生産者ふるい目での収穫量

652万トン

現行調査
での収穫量
679万トン

生産者ふるい目1.85、1.90mm等のふるい下米
(主食用に利用されているにもかかわらず、
生産者からは主食用として認識されていないもの)

27万トン (生産者の感覚との乖離)

1.70mmのふるい下米

※1：農家ふるい目幅基準の収穫量（試算値）は、各年産の都道府県ごとの主食用作付面積に10a当たり収量（農家ふるい目幅基準）を乗じた都道府県ごとの収穫量を積み上げて算出したもの。

※2：10a当たり収量（農家ふるい目幅基準）は、都道府県ごとに、過去5か年に農家が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値。

②全届出事業者を対象とした調査など米の流通実態の把握強化

- 米の流通実態をよりつぶさに把握するため、調査対象業界の**捕捉率**（現行：出荷56%、在庫88%）を**ほぼ100%**にすべく、調査対象を拡大し、7月中に取りまとめ。

これまでの調査の対象

捕捉率

出荷量 **56%** $\left(\frac{299\text{万トン}}{536\text{万トン}} \right)$

在庫量 **88%** $\left(\frac{347\text{万トン}}{396\text{万トン}} \right)$

※ これまで、生産者から大手・中堅集荷業者以外の業者等に出荷される量については、把握していなかったため。



今回の調査の対象

出荷量 概ね**100%** (536万トン)

在庫量 概ね**100%** (396万トン)

生産者

▶ **集荷業者**
(出荷段階)

▶ **卸売業者**
(販売段階)

▶ **製造業者**

**小売
中食
外食**

生産者

▶ **集荷業者**
(出荷段階)

▶ **卸売業者**
(販売段階)

▶ **製造業者**

**小売
中食
外食**

抽出

500トン以上
(毎月調査)
(約660者)

4,000トン
以上
(毎月調査)
(約230者)

500トン以上
4,000トン未満
(6月末調査)
(約400者)

対象外

1月末在庫、
出荷数量の
聞き取り調査

300トン以上
(1月末調査) (約640者)

300トン未満
対象外

抽出

6月末在庫、
出荷数量、
出荷先等の
聞き取り調査

**全ての届出事業者
を対象
(約7万者)**

※ 既存対象者の一部は、報
告内容について訪問調査

[新規]

対象拡大の
検討に向け、
事業者団体等へ
ヒアリング

- 今後の米政策を検討するに当たり、**全ての米の生産者（販売農家、農業法人その他経営体）を対象に、今後（来年、5年後、10年後）の米の生産意向等に関するアンケート**を開始。

<アンケート項目>

- ・ 経営体の概要
(個人/法人、住所/所在地、年齢、平場/中山間地、水稻作付面積、主食用米作付面積)
 - ・ 来年、5年後、10年後の米の生産意向
(拡大、現状維持、縮小、離農)
 - ・ 増産・生産継続するに当たっての課題
 - ・ 自らの生産コストの把握状況
- など

<アンケート方法>

インターネット上のフォームを用いたアンケート
(SNS等で周知)

<実施期間>

令和7年6月19日から7月末まで

<アンケート結果の取り扱い>

- ・ 個人を特定できない形で集計した上で**公表予定**
- ・ 集計データとセンサスの統計データとを組み合わせ、
①年齢・規模別の米の生産力の見通し
②意欲ある経営体が今後生産を拡大するに当たっての課題を明らかにすることを狙う。